

NRA NEWS No.31

発見館ミニ企画展

開業40周年 名鉄豊田線



令和元年
7月13日(土)～9月1日(日)

豊田市近代の産業とくらし発見館

豊田市豊多町4丁目45番地 ☎0565-33-0301
 開催時間 9:00～17:00 休館日 毎月月曜日(祝日は開館)
 ホームページ <http://www.toyota-hakken.com>
 主催 豊田市教育委員会

上：チラシ 右：パンフ



発見館ミニ企画展

令和元年 7月13日(土)～9月1日(日)

開業40周年 名鉄豊田線



浄水駅付近を伏見方面へ向かう電車 昭和54年7月29日 名鉄資料館提供
 矢野の線路を走る100形。

挙母(現・豊田市)一八事(現・名古屋市)間の鉄道建設が計画されたのは大正15年(1926)。この事業はその後、50年余を経て「車のまち・豊田」から みよし市・日進市を通り、名古屋の中心部を結ぶ大動脈・豊田新線(15.2km)として、昭和54年(1979)7月29日に開通しました(のちに豊田線と改称。以下、豊田線)。
 今年、開業40周年を迎える名鉄豊田線について、貴重な写真を中心に紹介します。

豊田線開通まで

大正期に計画

大正15年(1926)10月、挙母町の外山市太郎、高橋村(現・豊田市)の都築峯太郎ほか8名は、名古屋市の千種から挙母を経て、松平村(現・豊田市)九久平に至る鉄道の敷設を計画しました。この事業に三河鉄道株式会社(以下、三河鉄道)も参加し、昭和2年(1927)9月、挙母町において「新三河鉄道株式会社(以下、新三河鉄道)」の設立総会が開かれました。

社長には筆頭株主である三河鉄道社長・神谷傳兵衛(2代目)が就任し、翌年12月、挙母一八事間の鉄道敷設免許を取得しました。この免許は、新三河鉄道-三河鉄道-名古屋鉄道株式会社(以下、名鉄)へと引き継がれました。

バスで1時間25分かかった豊田市駅-名古屋駅

豊田市中心部から名古屋中心部は、直線距離で約25kmの位置にあります。豊田線開通前、両市の間を直接結ぶ公共交通機関は、名鉄バスが豊田市駅と名古屋駅との間を1時間25分で走っていましたが、鉄道では名鉄三河線・名古屋本線との乗り換えが必要で、長く不便が訴えられてきました。

一方、昭和30年代後半から名古屋市の発展と共に住宅需要が急拡大するとともに、公共交通機関の整備が叫ばれるようになりました。名鉄は名古屋市交通局と相互乗り入れ協定を結び、昭和47年(1972)、計画中だった地下鉄3号線(現・鶴舞線)の終点から豊田市駅へ至る、豊田線の建設を決定し、昭和48年10月に着工しました。鉄道建設は西側から行われ、昭和54年3月に梅坪駅の高架化が完成し、同年7月29日に開通しました。

交通網整備の原動力に

豊田線開通前、豊田市は、中部圏の中核都市として飛躍的な発展を遂げた一方、公共交通の整備が遅れがちと言われていました。名鉄豊田線の開通により、豊田市と名古屋市(伏見駅)は45分という短時間で結ばれました。豊田線の開通は、交通網整備の原動力と期待され、バス路線の再編成も行われました。



浄水駅行きバス 平成20年3月 月曜八十八人建機

新線開通までは保見団地から名古屋方面へ出るのが不便でした。地下鉄東山線が丘駅まで名鉄バスが運行されていました。新線が開通してからは団地と浄水駅を結ぶ路線が開通され、現在に至っています。

今年の7月29日で、名鉄豊田線が開業40周年を迎えた。名鉄でも記念乗車券の発売やヘッドマークの掲示などのイベントを実施したが、豊田市の通称「発見館」でもミニ企画展が開催されている。西川会員の開業日の写真(左)などNRA会員も協力しており、会場で配布されているパンフには協力：NPO法人名古屋レール・アーカイブスの表示が入れている。(参照:3頁)

もくじ

白井 昭の一口メモ

名鉄の簡易連結器

- 1 バンドン式連結器 2
- 2 ドロップフック式連結器 2
- 3 ピン・リンク式連結器 2

- 4 蛇足 2
- 補遺 パノラマカー10連運転の真相 3
- 豊田市 発見館の「開業40周年 名鉄豊田線」に協力：藤井建 3
- 事務連絡 4